東京日々新聞

九百十四号

萬寶なんぢ幾

彼の先達い斥官
ゴて出入のお店へ壁を塗りゴ
往て居ゴりがな報知ときくや否や
人の許ゴ至り是ハ淫靡とせねばならぬとて病人の枕上ゴて盛ん
火を焚き鈴ごふりたて珠数幣帛ゴ持ち異口同音ゴ真言を唱へ
仕事ゴ休ゴ俄ゴ溝中五六人と焚ひ彼の病
つゴ病人の頭より手足ゴよこつるまで所ち嫌ゴ打ち叩けい病人ハ苦痛
ゴ絶へゴ苦いつて憑性の真似して一時の苦しゴを道んと思ハ速ゴ立
ち去りまゴと云ゴて先達目と怒ゴて出て行ゴハ証拠と立ゴ
サ其証拠ゴ何とゴと押ー詰られ病人も
當惑ぼ〜ゴ赤ゴもと三本真て行まゴと叫ゴ皆〜一同立
ゴて病床の辺ゴ探ー求むゴどう更ゴ立ゴりけゴ先達又
怒りゴ厳しー些蓋生が此上ハゴ厳薄ゴ掛ゴ呉んと
いふゴ図つり病人ひりゴと起直りゴリゴ左官
主次郎どの氣ゴ落つけてゴく削れゴ見ゴ
軀ゴ出ゴ只麦毒ゴい病氣が付ゴ居るはゴ
外ゴハ何も付ゴ居ぬゴ前がゴこそ泡ゴ煙
ゴ魅ゴあれて居ゴゴゴゴゴゴゴゴ此ゴゴも益
ゴもきゴね馬鹿ゴ真似ゴさゴゴゴゴゴ神
奈川縣廳ゴ願ひ付ゴゴと目ゴ怒ゴゴて
白根つゴられ先達い肝ゴ潰ゴ持ゴ泡沫
ゴ顔ゴきゴて溝中ゴゴゴゴゴゴゴゴ
逃ゴげ帰ゴりゴゴ動
馬鹿ゴゴゴ唖ー
ゴゴゴゴ

横濱元町の商某ハ梅毒ゴて煩ゴ事
既ゴ十三年の久ーゴゴ
及ひゴゴ此ゴゴ悪ゴの
強ゴ敬ゴゴゴ日訳ゴ
ゴき語語ゴ発ゴゴ享
折々ゴゴゴゴ家内
の者ゴも聞ゴ日ゴ是ハ
全く
憑物
の者ゴゴ
ちんゴ吉四
町辺ゴ住
ゴゴ山溝
ゴゴ御嶽
ゴゴ先
達の所ゴ駆
行其次第
ゴ座ー
ゴ頼ゴ
ー